

技術開発完了報告

関東森林管理局

課 題	低コスト及び需要に応じた苗木選定のための実証試験	開発期間	平成24年度～26年度
開発箇所	茨城森林管理署 担当部署	森林技術・支援センター 共同研究機関	森林総合研究所 林木育種センター 技術開発目標 (1)
開発目的 (数値目標)	<p>初期成長や材質（強度）が特に優良な系統を第二世代精英樹候補木から選抜し、現場における初期成長などの実証試験を行い、育林初期におけるコスト削減ならびに需要に応じた商品生産のための、さし木用品種の開発に資するとともに民有林関係者の視察や研修の場として活用する。</p>		
実施経過	<p>○平成24年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 試験地設定 2 育苗 3 試験地への植樹 <p>○平成25年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 活着率調査 2 成長量調査 3 植栽木配置図作成 4 平成26年度試験地設定 <p>○平成26年度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 試験地への植樹 2 活着率・成長量調査 3 植栽木配置図作成 4 完了報告作成 		
開発成果等	<p>第二世代精英樹候補木のクローン試験地を2箇所設定した。それぞれの試験地において、植栽木の測量により、個体の詳細な位置をおさえることができた。</p> <p>設定した試験地において、成長量調査を行った。成長のクローン間差は大きく、第二世代精英樹候補木の中から、成長に優れたクローンを選抜できると考えられる。</p> <p>過去の造林初期コストの削減に関する技術開発課題「下刈処理に対する反応の系統間差の解明（平成22年度終了課題）」から、省下刈り条件の下では、雑草木を抜け出すためには初期成長速度が大きいことが重要であることが明らかとなっている。この結果と、本試験での成長速度と比較することにより、下刈り省力化を可能にする「さし木クローン」が一定数存在することが示唆された。</p> <p>エリートツリーはこれまでにクローン検定が行われていないため、本課題で設定された試験地は、エリートツリーのクローン特性を明らかにするのに貴重なものである。</p> <p>本課題は3年間と短期間であったため、クローンの成長特性を見極めるためには、今後も継続的な調査を行う必要がある。</p>		